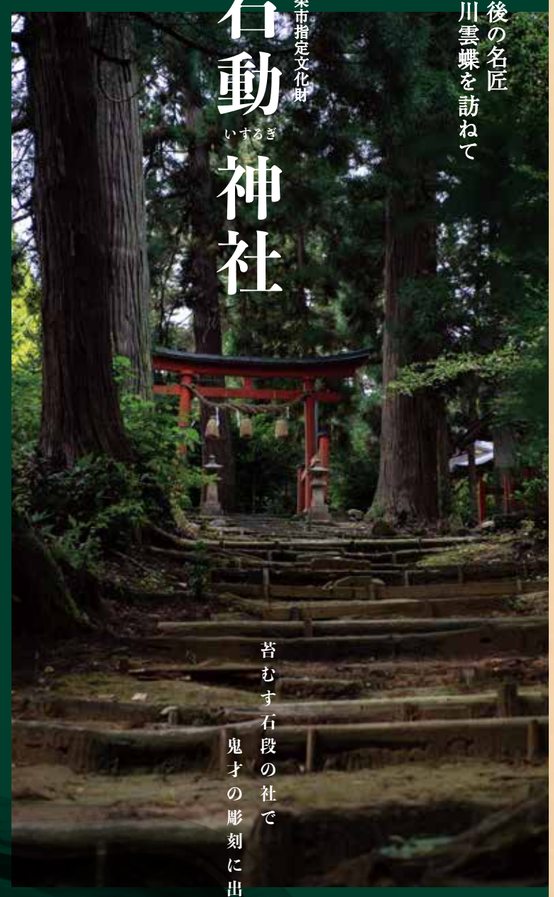
越後の名匠
石川雲蝶を訪ねて

三条市指定文化財

石動神社



苔むす石段の社で
鬼才の彫刻に出会う

三条観光協会／三条雲蝶会

表紙

造営

石動神社の造営には、紆余曲折が伝えられている。火災後再建にかかるも戊辰戦争の戦禍の為しばらく中断するが翌年頃より再び始まる。山頂で風雪が強い事から、軒丈を一尺低くせよとの断が下され、吉野屋宮大工棟梁の松尾嘉治は全体の調和が崩れ後々の名折れになると無念さを滲ませたという。

雲蝶は本成寺檀家の吉野屋村庄屋の木原家に請われ、造営中の石動神社拝殿の彫刻に着手する。雲蝶は棟梁の松尾家に滞在して、制作に没頭する。その後庄屋・木原家に移り寝食を忘れて仕事に励み、ようやく明治五年に完成する。

由緒

主神は伊須流岐比古命で能登国（石川県）石動山天平寺より、延歴三年（七八四）に歓請され、医薬の神「権現様（ごんげんさま）」の名で近郷のみならず遠来からの信仰を集め名高い。麓の御堂ヶ原（やしろ）にあった社を元禄十一年（一六九八）頃に権現山の頂上に還座される。幕末の慶応年間に消失し明治五年（一八七二）に再建される。

大正九年十月八日に「村社」となり、益々村民の崇拝を集める。

毎年四月に「春季大祭」、また「夏季大祭」は現在七月十三日に近い土・日曜日に「花灯籠まつり」として五穀豊穣・氏子安全を祈願して参道や神社を華やかに飾り盛大に行われている。

祭神

石動神社の祭神

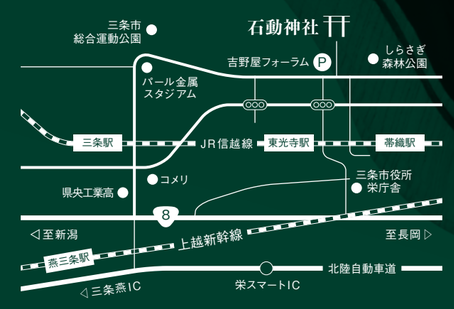
伊須流岐比古命	医薬の神
菊理比売命	農業の神
建御名方命	農業の神
大山祇命	山の神
大山昨命	開拓の神
大字迦命	農業の神
市杵島比流命	海・水の神

●石動神社拝殿内公開／土曜・日曜・祭日
●欄間彫刻と天井絵以外は外から見学できます。

アクセス　新潟県三条市吉野屋甲262

▷上越新幹線　「燕三条駅」より車30分
▷北陸自動車道「三条燕IC」より車30分
▷北陸自動車道「栄スマートIC」より車20分

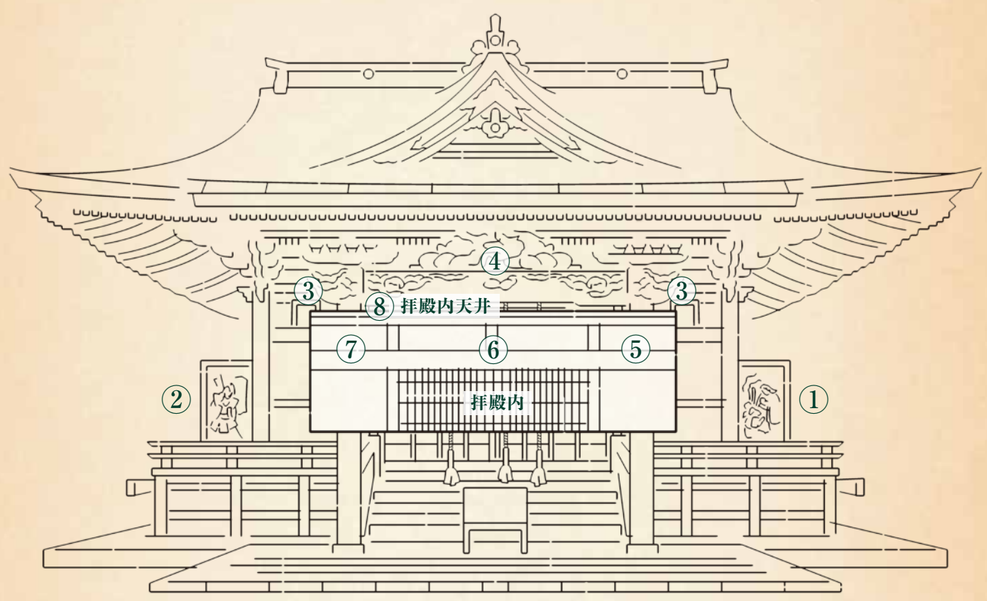
駐車場
吉野屋フォーラム内あり
（石動神社より徒歩5分）



三条市公式観光サイト
https://www.city.sanjo.niigata.jp/sanjonavi/see_do/history_culture/2267.html

制作：三条観光協会／三条雲蝶会
〒955-8686 新潟県三条市旭町二丁目3番1号【事務局：三条市役所営業戦略室内】

裏表紙



石川雲蝶と作品

石川雲蝶は文化十一年（一八一四）江戸の雑司ヶ谷（東京都豊島区）に生まれる。名は安兵衛。若くして石川流の彫刻師として名を馳せる。本成寺檀家総代の三条金物商の内山又蔵と江戸で出会い懇願され、法華宗総本山 本成寺の本堂欄間と納骨堂干支を始め、塔頭寺院に数々の作品を遺している。

石動神社の拝殿は、石川雲蝶晩年の傑作に埋め尽くされている。向拝正面の梁の「龍」は拝殿を火災から守護する為に、今にも抜け出して、水を吐きそうな気配が感じられる。梁を支える門柱には一対の「獅子」が社殿を災難から守っている。向拝と拝殿を継ぐ手狭みの波間に漂う「亀と鯉」は鯉が隠し彫りにされていて、雲蝶の遊び心が感じられる。

拝殿回廊の右脇障子に「神功皇后と武内宿禰」が、左脇障子には「加藤清正と高麗人」の作品がある。両作品共に欅の木目を巧に活用した名作である。

拝殿内正面の欄間には三組の場面（作品）が彫工されてある。

右が源頼政の「鵺退治」、中央二枚が源頼光と四天王による「土蜘蛛退治」、左は俵藤太の「大百足退治と龍神」である。いずれの作品も無彩色で材質と木目を巧に利用した名作である。

雲蝶は三条付近のみにあらず県内各地に多くの素晴らしい作品を遺している。

三条四ノ町酒井家に婿入りし、妻「くに」との間に長女「浪」と長男「儀平」が生まれている。

明治十六年（一八八三）五月十三日死去（享年七十才）

位牌は塔頭寺院蓮如院に有り、墓は本成寺本堂の東側にある。

① 神功皇后と武内宿禰

右脇障子

14代仲哀天皇の皇后。天皇の死後に新羅に出陣し凱旋の後、九州筑紫の地で15代応神天皇を生んだ。一般に神功皇后の姿は鎧冑をつけた凛々しい女武者姿で描かれているが、皇子を優しく抱いて授乳している姿の図。足元の「武内宿禰」は五人の天皇に二百数十年仕えたと伝えられている。「神功皇后」と「武内宿禰」は共に実在したかどうか不明の伝説の人。

刻名　三条彫師匠雲蝶
材質　ケヤキ
寸法　130cm×65cm

② 加藤清正と高麗人

左脇障子

戦国時代に武断派武将として大活躍した。「文禄・慶長の役」では先鋒として朝鮮へ出兵した清正が朝鮮の王子を捕虜にした図。陣中での「虎退治」は有名である。

作品には「大日本肥後国熊本加藤主計之頭清正」とされている。

刻名　石川匠雲蝶
材質　ケヤキ
寸法　130cm×65cm

③ 獅子

向拝左右

大変躍動感溢れる一対の「獅子」が柱に巻きついて取り付けられている。細部まで入念に彫刻されている。

手挟みには巧みな透し彫りの波間に「亀と鯉」が隠し彫りされているので、ぜひ見つけてもらいたい。

刻名　右三条 石川安兵衛 匠雲蝶
　　左明治二己巳初秋 彫工
材質　ケヤキ

④ 龍と千鳥

向拝中央

今も飛び出さんばかりの大迫力の「龍」がおどり、下部には「波間に千鳥」が遊んでいる。

龍には地元でこんな伝説が伝えられている。

「当初、龍の首は右を向いていた。暫くして、夜な夜な田より不気味な水音が聞こえて住民が安心して眠られない。どうも龍が夜毎に降りて水を飲みに来ているのではないかと。雲蝶に相談して龍の首を左向きに付替えたところ、不気味な音は止んだそうだ。」

材質　ケヤキ

⑤ 鵺退治

欄間右側の一面

鵺は頭が猿、胴体は狸、手足は虎、尾は蛇という伝説上の怪物である。

平安時代の末期、武勇の誉れ高い源頼政（源三位頼政と称された）が御所にて黒雲に向かい矢を放ち、地上に落ちてきた鵺を、家来の猪早太が短刀で止めを刺す場面が彫られている。

刻名　明治五壬申仲春 石川匠雲蝶
材質　松
寸法　52cm×160cm

⑥ 土蜘蛛退治

欄間中央の二面

平安時代中期、射術にすぐれた源頼光と頼光四天王と呼ばれている渡辺綱、碓井貞光、卜部季武、坂田金時の四人と藤原（平井）保昌の六人で「土蜘蛛退治」をする場面である。衣服の袖に家紋が彫られており、それぞれの人物を特定する鍵となっている。

頼光と四天王は、大江山酒呑童子退治でも有名である。

刻名　匠雲蝶
材質　銀杏
寸法　二面共に52cm×160cm

⑦ 俵藤太と龍神

欄間左側の二面

俵藤太（藤原秀郷）に琵琶湖に住む龍神が湖を荒らす近江三上山の大百足を退治してもらいたいと姫に化身して頼み込んでいる場面である。

弓矢の名手として知られた秀郷は、三本の矢で見事に大百足を退治する。

龍神の竜宮にて御礼にと、米を使っても使っても尽きない米俵をもらったことから「俵藤太」と称された。

刻名　匠雲蝶
材質　松
寸法　52cm×160cm

⑧ 格天井の絵画

雲蝶は彫刻のみならず絵画にも才能が有り、各地に名作を遺している。

格天井は九十七枚の絵画が描かれている。

中央に大きく三条文人画家・帰山雲涯の「龍」が描かれている。雲蝶の作品は三枚が確認できている。

●椿と花器と鋏（右写真）
●翁面と烏帽子と竿　●生け花

三枚共に匠雲蝶□の落款がある。

残念ながらいずれも経年退色で判明が困難になっている。

中面２